

平成 25 年度東京都子供読書フォーラム

実践報告発表

台東区社会教育団体「たいとう絵本の泉」

「たいとう絵本の泉」代表 碓水 州恵

みなさん こんにちは。

これから、私たち「たいとう絵本の泉」の実践報告をさせていただきます。実践報告というような立派なものではありませんが、つたない私たちの活動について、皆様と共有させていただければと存じます。よろしく願いいたします。

【たいとう絵本の泉の発足について】

たいとう絵本の泉は、平成 15 年（2003 年）に発足いたしました。

きっかけは、台東区立中央図書館が平成 14 年に第一回の読み聞かせ講座を開催し、その時に参加した修了生有志で、絵本のことや読み聞かせのこと、また子どもたちの読書を取り巻く環境などについて、もっと深く勉強していきたいということになって会を発足させ、その後の 15 年 16 年の修了生の方にも声をかけました。

発足当初の会員は、20 名程度で、小学生や幼稚園児を持つお母さんが多かったです。

台東区ではこのころ、小学校でのお母さんボランティアによる読み聞かせや図書室を休み時間に開けさせようという動きが出てきたころでした。それまでは、区内 20 の小学校のうち、半分には図書室がなく、残りの 10 校では図書室があっても本がとても古くて子供たちが進んで手に取りたいと思うようなものではなかったり、司書さんが配置されていないので、休み時間は大人の目が届かずに、いじめの発生場所になるなどの懸念から、開館されていなかったのです。

この読み聞かせ講座を実施して、お母さんたちにも読み聞かせなどの初歩的な知識を持つ

てもらい、学校内で活動するという計画でもあったと聞いています。

そのようにして、私たちは、小学校の朝の時間にクラスに入って読み聞かせをするようになりました。

それから 10 年がたち、当時の中心メンバーの子ども達も小学生から高校生や大学生になり、子どもたちの成長と共に、働く人が増え、会の活動は、60 代から 70 代の方が中心になってきました。

【活動内容について】

現在の活動内容は、おはなし会の実践です。おはなし会は年に 2 回の大きなものと毎月区内約 15 ヶ所で行っているものがあります。

年に 2 回のひとつは、4 月に台東区中央図書館こどもとしょかんまつりです。

一日に 4 回公演で、1 回は 30 分ずつです。

乳児向けプログラムでは、絵本を使って体を動かしたり、わらべうたや童謡などを歌いながら絵本を楽しむなど、あかちゃんとお母さんお父さんが一緒に楽しめるような雰囲気作りを心がけています。



続いての幼児向けプログラムでは、通常の絵本の 3 倍くらいあるビッグブックを使用したりします。ビッグブックは、うまく本を選べば、子供たちもとても喜んできいてくれます。



後の2回は小学生向けプログラムです。

この時は、この年、金環日食が話題になっていましたので、それをテーマに、選書をしました。科学絵本とよばれるジャンルの本を中心に読み聞かせをし、その説明に小学生向けの科学雑誌のカラーページを紹介するブックトークといわれる手法を使いました。読み物的な絵本であっても、地球にどうして昼や夜があるのか、などがわかりやすいイラストになっている本などが子供に人気でした。



もうひとつの小学生プログラムは、「絵本で世界を旅しよう」と題して、世界地図を見せながら、読んだ本の舞台を紹介して、世界地図で確認するという、小学生の視野を広げることをこころみる展開でした。

各プログラムが終了したときには、その回に読んだ本を紹介しています。これも、この後、子供たちが本を借りていってくれるように促

すものです。なので、私たちが読む本は、図書館で借りられるような、入手しやすい本であることを基本にしています。

年に2回のもうひとつは、9月の台東区男女平等推進フォーラムでのおはなし会です。

このフォーラムには20団体ほどがブースを出しますので、私たちも入り口にデコレーションをします。



このイベントでは、親子で参加してもらっていますので、手に取りやすいように展示陳列しています。そして、ここで本を選んでもらい、親子で前に出てもらって、親御さんがお子さんに読むという、ちょっと変わった趣向のもので、参加者に大人気です。

人前で読み聞かせしてみたいけれど、練習もしないで、恥ずかしいし、できはしないとといった親御さんや、お子さんも自分のお母さんが自分のために読んでくれるのをみんなと聞くという誇らしげな気持ちなどが感じられる、とても楽しいイベントです。スタッフがそばにいますので、心強く思っただけにいます。

近頃は、お父さんもかなり積極的にイクメンですので、参加して下さいます。もちろん、スタッフが親御さんの代わりをお手伝いすることもあります。

また、お子さんが読むのをお父さんがアシストして下さることもあります。大好きな本があつて暗記に近い状態だったので、ぜひやってみたいというものでした。

このほか、毎月、15ヶ所ほどで読み聞かせを実施しています。

台東区児童館幼児タイム 0～3歳までの各クラス、保育園、幼稚園、学童クラブ、児童館、中央図書館こどもとしょしつ、特別養護老人ホーム、小学校などへ、会員が出向いて、おはなし会をしています。昨年度は、200回ほど実施しました。

【選書について】

おはなし会を実施するには、選書が必要です。選書には、いろいろなポイントがあるかと思いますが、私たちの会の絵本の選び方をご紹介しますと思います。これが正しいということではなくて、いろいろに試行錯誤しているといった感じです。

先ほども申し上げましたが、選書の基本は、聞いた子供がもう一度読みたいと思ったら、図書館などで気軽に手に取れる本であること。絶版本などは、特別な理由がない限り、選ばないようにしています。



またお菓子絵本は選ばないということも心がけています。お菓子絵本とは、例えば、ディズニーの絵本だったり、昔話をアニメ絵本のようにしたものとイメージいただければと思います。そういう種類の本が悪いと申し上げているのではなく、私たちがわざわざ読み聞かせをしなくても、ディズニーやアニメ絵本は子ども

が進んで手に取ります。私たちは、昔から良い本として存在しながらも、地味で、誰かが紹介しなければ、お母さんもお子さんも知らずに通り過ぎてしまうだろうという本を届けたいと考えるからです。これは、読み聞かせだけではありません。私たちは、小学校で、ブックトークという、本を紹介する活動もしていますが、その時も、子供たちが競って読みたがる「怪談レストラン」や「ゾロリ」などはふれずに、子どもが手には取らないけれど、ぜひ読んでほしい本を紹介するようにしています。

また、何度も定期的に通っていて、聞いてくれるお子さんたちもほとんど固定で、だいたいの様子もわかっていて、子供たちとの信頼関係ができているなどと思えば、悲しい結末の本を読むことも可能ですが、多くの場合は、一期一会と私たちは思っています。であれば、あえて、いじめを扱ったものやお母さんから虐待される本、戦争の本、じっくりと解説が必要な本などは選ばずに、読み終わった後に心がほんわりとあたたかくなって、幸せだったなと子どもが思ってくれるような本を選ぶことも大切かと思えます。

レジメには、年齢別とありますが、0歳から1歳くらいまでのお子さんたちに読むときには、赤ちゃんが本を聞いていなくても、気にしないように声がけしながら、お母さんがほっとするような楽しみ方を提案しています。こんなふうに本を読んであげればいいんだ、見ていなくても、読んでいるお母さんの声を赤ちゃんは楽しんでいるんですよと伝えています。また、赤ちゃんどう遊んだらいいかわからないという若いお母さんに、絵本を遊びのツールとしてこんなふうに使えますよという提案もしています。

また、難しい本になりすぎないことでしょうか。3歳から5歳くらいの幼児は、自分の日常生活のなかで実際に体験したことをもとに、本

を理解していきます。ですから、例えば、見たこともない外国の細かい生活習慣を知らなければわからないような絵本を読むことは避ける。もちろん、読まないということではないので、そういったことを基本にしているということです。

【気をつけていること】

訪問先別で、気をつけていることは、乳幼児のところではあまりありませんが、学童クラブや学校では、ご家庭が複雑なお子さんも本当に多いので、親や家族や外国の方々を扱った本を読むときなどは、担任の先生と事前の調整や、読む本を事前にチェックしてもらうなどがあります。

テーマ別では、季節感を大事にしています。夏に雪の本を読まないとか、今のお子さんたちは旬というものを理解するのが本当に難しいので、食べ物や自然や行事や文化、生活習慣などを通して、季節感を大事にしています。

また、科学絵本もテーマとして取り上げるようにしています。納豆の作り方や星や太陽などの天文、氷のでき方やどんぐりのこと、花の咲き方、虫のことなど、本当に多岐にわたって興味深い本がたくさんありますので、テーマとして大切だと思えます。

【定例会について】

最後は定例会についてです。私たちは、月に一度、2時間の定例会をもっています。内容は活動報告と勉強会です。

活動は、ひと月に15か所ほど行っていて、1回は30分のプログラムを組んでいます。報告は、その時に読んだ本や子供たちの反応、先方との話題、反省などをメンバー間で共有します。残りの1時間で勉強会をします。たとえば、昔話絵本を考えるなどのテーマを決め、各自が問題や疑問に思った題材を持ち寄ったり、読み聞かせや読書に関する社会状況について意見を交わしたり、手遊びやわらべ歌、紙芝居などのプログラムに入れてスパイスにするものを勉強したり、いろいろな勉強会をしています。

【おわりに】

読み聞かせには、絶対こうでなければいけないという形があるわけではないと、私たちは考えています。つねに聞いてくれる子供たち、大人たちのために、絵本を選ばせてもらい、おしつけにならず、できれば幸せで、心が温かくなるような時間を一緒につくりたいと、心がけています。以上、私たちの会の活動について、ご紹介させていただきました。ありがとうございました。